

【資料 1】

明星学苑海外日本人小学校の足跡

日 本 新 聞

昭和 42 年 (1967 年) 3 月 8 日 (水曜日)

「海外に駐在している日本社員の子弟教育のために」と府中市栄町一の、私立明星学苑小学校(児玉九十校長)は、アラビア石油(山下太郎社長)と協力、クウェートのカフジに同小学校の分校を設置、四月から開校することになった。最近、日本の商社マンたちの海外駐在は増加の一途だが、現地の子供の教育には頭を痛めているのが実情だ。それだけに文部省も、初め「できる海外にいる日本の子供のための小学校分校を、ケースとして注目している」。

アラビア石油では現在六十世帯の日本人社員がクウェートに駐在、石油探掘の仕事に従事しているが、このうち小学生が十八人にも達している。しかし、こぼや環境が違いため、日本の教育が十分でなく帰国してから、遅れを取り戻すのに一苦労である。

こうした悩みを解消しようと同社は、現地に小学校の設置を考えた。たまたま同社には明星学苑高校の卒業生がかなりおり、クウェートにも二人が駐在している。しかも、みんな優秀な社員、そこで昨年九月児玉校長に分校設置の話を持ちかけた。

学校側としても「海外にいる日本の子供の教育に役立つばかりか、昨年クウェートに現地の大学



明星学苑小が初の海外分校

来月、クウェートに

アラビア石油社員の子弟教える

「海外に駐在している日本社員の子弟教育のために」と府中市栄町一の、私立明星学苑小学校(児玉九十校長)は、アラビア石油(山下太郎社長)と協力、クウェートのカフジに同小学校の分校を設置、四月から開校することになった。最近、日本の商社マンたちの海外駐在は増加の一途だが、現地の子供の教育には頭を痛めているのが実情だ。それだけに文部省も、初め「できる海外にいる日本の子供のための小学校分校を、ケースとして注目している」。

アラビア石油では現在六十世帯の日本人社員がクウェートに駐在、石油探掘の仕事に従事しているが、このうち小学生が十八人にも達している。しかし、こぼや環境が違いため、日本の教育が十分でなく帰国してから、遅れを取り戻すのに一苦労である。

こうした悩みを解消しようと同社は、現地に小学校の設置を考えた。たまたま同社には明星学苑高校の卒業生がかなりおり、クウェートにも二人が駐在している。しかも、みんな優秀な社員、そこで昨年九月児玉校長に分校設置の話を持ちかけた。

学校側としても「海外にいる日本の子供の教育に役立つばかりか、昨年クウェートに現地の大学

ら話があったが、文部省でも積極的に賛成してくれた。いまはアラビア石油の日本の子供だけを対象に勉強を教えるが、将来は現地人も日本の勉強のために先生を講師にといった話も出るだろう。国際親善のためにもそのときは大いに

わらない教育をしていくつもりだ。

子供のためがんばる

中村教諭の話 トップバッターに選ばれて本場にうれしい。子供のためにもがんばりたいと思っています。

学人文部、福島茂明助手(三)が決定、二十五日に現地へ出発する

る。先生の報酬は会社の社員と同一待遇で月二百五十ドル。

学校側の話では現地では二十一、二位にランクされる高給、そのうえ石油アームで税金がかからないとあって生活はかなり楽。このため四十日もある夏休みにはヨーロッパ旅行などを計画。世界の教育の勉強を見て回る予定だという。

分校は現地の社宅内に鉄筋の校舎が二月完成しており、クラスは一、二年と三、六年生の二クラスで複式学級。授業は五日制で午前だけ。四月十日から開校することになっている。

児玉校長の話 アラビア石油が

【資料2】

日 本 業 界 時 間 (夕刊)

昭和45年(1970年) 6月10日

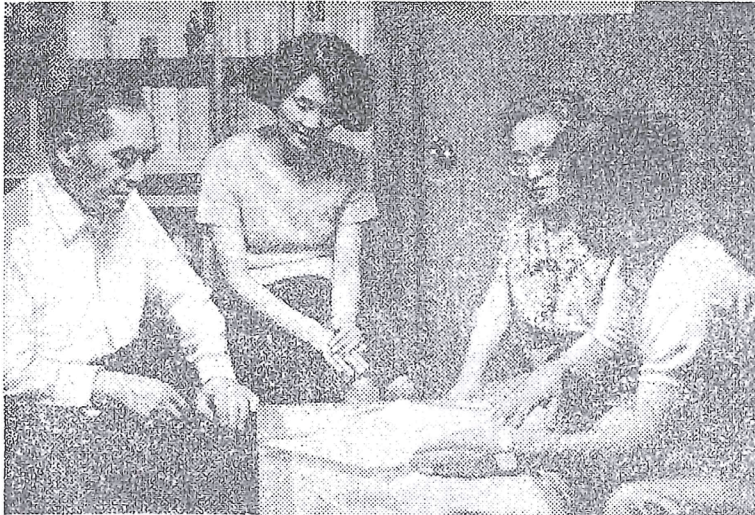
コンゴに分校づくり

明星学苑

二人の先生派遣

開発銅山に「日本の教育」

アフリカ・コンゴの銅山で働く日本人従業員の子弟教育のため東京府中市、明星学苑児玉九十学苑では、日本鉱業Ⅱ本社・港区赤坂三Ⅱの依頼で現地に小学校の「分校」を建てることになり、十日正午すぎ職員二人が派遣した。海外で働く日本人子弟のための日本人学校は多いが、国内の私立学校が正式に分校として学校名をもうたい込み、卒業証書、教育内容も「本校」そのまゝというケースは同校がはじめて。「海外進出は学校の方針で、条件を厳格に、これからの子どもに分校をつくりたい」と学校側は意欲的だ。



同学苑が分校をつくるのはコンゴ・カタンガルムンバ市のムンシ。同地には、有望な銅山があるため、日本鉱業が中心となり「コンゴ鉱工業開発会社」ソジミコを設立、昨年五月から試掘をはじめたが、効率は現地に派遣されている日本人技術者の子弟十八人の教育、小学生はベルギー人の学校へ通っているが、将来日本へ帰った場合のことを考えると、日本人の学校へ通わせたいというのが父兄たちの願い。このため、同鉱業は将来、探掘が本格化すれば



⑤「あさってには「コンゴだな」と一人娘の宏子さん夫妻と出発前夜をすこす中西さん(左端)と妻の利子さん(右から二人目) ⑥青木さん



日本人技術者とその子弟が当然ふえることを考慮して昨年の暮れ、同学苑に分校建設を申入れた。同学苑に「白羽の矢」を立てたのは、同鉱業初代社長、久原房之助氏と元玉巻社長が旧知という個人財源のほかに、四十一年アラビヤ石油がクウェートにつくった学校に三人の先生を派遣している「実績」が買われた。コンゴにできる学校には「コンゴ明星ムンシ小学校」とはつきり学苑名をつた

い、教育内容も本校の方針をそのまま取入れ、父兄が日本に帰った場合は子供も同学苑に無条件で転入させるという。

「明星分校」は来年四月一日開校の予定で、校長代理に明星大教務部職員、中西悦夫さん(中)府中市西原町二の七Ⅱが当たり、同学苑小教諭、青木秀雄さん(右)西多摩郡五日市町小和田三九Ⅱが教師役をつとめる。校舎建設費など費用のいっさいは同鉱業で負担するが、現地の学校づくりの段取りは中西さんと青木さんがさい配を振る。

一昨年、長野県木曽郡読書人の小学校長を定年退職した中西さんと今年三月、明星大心理教育学科卒業したばかりの青木さん。共に教育を「共通項」にコンゴでの新しい人生に臨み切っている。

コンゴ鉱工業開発会社は、ルムンバ(エリサベートル)の中心から百キロほど離れたムンシの広大な原野にレクリエーション施設や迎賓館まで備えた日本人街を造る計画で「コンゴ明星ムンシ小学校」はその中心的な役割を果たす。

妻の利子さん(左)とともにも十日午後、羽田発のエルフランス機で出発した中西さんは「子供のいるところへ教育ありです。三カ年計画で明星ムンシ小が完成したときには、超一流の設備を備えた小学校にするつもりです」と「経済大國」の一翼を担う心意気をちょっぴりのぞかせた。

【資料 3】

『創立 60 周年記念誌 明星学苑』

海外校

カフジ明星小学校

本校は、昭和四十二年四月、アラビア石油株式会社と、学校法人明星学苑との間でとり交わした「教師派遣ならびに教育全般に関する契約」に基づきサウジアラビア・カフジに開設されたものであり、現在に至る。

学齢児童に対する教育は、日本国「学校教育法」に準拠して行われ、児童が該当学年を修了または卒業した場合、学校長がこれを証する。本校の入学資格を有するものは、アラビア石油鉱業所に勤務する者の子女で学齢に該当するものである。また、教育目標および方針は、明星学苑の教育目標および方針に準ずる。

派遣職員＝中村雅臣・福島茂明・波多野松男・清水軾夫・岡田隆機・前之園幸一郎・吉田耕陽・高島秀樹・佐尾山^(ママ)秀二・山川泰宏・三浦正一・小堀宏甫・綿貫敏雄・小山研士・小原格・望月克彦・清水英典・竹村敏子・松尾洋一・土子恵美子・上野直紀・黒木一郎・明内^(ママ)弟次・古賀博・山本聖一

ザイール明星ムソシ小学校

昭和四十五年四月一日、コンゴ鉱工業開発(株)と明星学苑との間に「教師派遣ならびに教育全般に関する契約」が成立し、同年六月より現地において開校準備が進められる。コンゴ民主共和国がザイール国となり、学校の名称もザイール明星ムソシ小学校となる。学校は、ザイール国ルブンバシより東北に百キロ、シャバ州オ・シャバのムソシ鉱山より十キロの日本人社宅内に所在し、標高千三百メートルの高地で、隣国ザンビアとの国境地帯である。

昭和五十一年三月十一日、隣接アフリカ諸国政情不安定のためザイール鉱工業(株)の方針によりザイール明星ムソシ小学校を閉鎖し、家族を日本に帰国させることとなった。

派遣職員＝中西悦夫・青木秀雄・永島明子・武田尊・百木英明・清水正人

イラン・シラズ明星小学校

○沿革

昭和五十年二月十五日、ブリヂストンタイヤ(株)と明星学苑との間に「学校運営・教師派遣に関する契約」が調印され、テヘランから南に九百キロ、シラズ郊外に同年四月暫定開校、同年八月二十八日盛大な開校式が行われスタートしたが、昭和五十三年九月八日福田首相一行を全児童が、シラズ空港にて出迎えたその日に、シラズ市他十二都市に戒厳令が公布され、十月八日には、反政府派の暴動のため臨時休校、十二月四日には、BS 家族とともにローマに避難、イラン政変沈静の兆しがないたため昭和五十四年三月末、やむなくシラズ明星小学校は閉鎖することになった。

派遣教師＝川上和夫・龍華孝爾・綱田活廣・宮内由美子・渡辺澄江・土門良司

シトカ・ランゲル明星日本語補習校

シトカは、アメリカ合衆国アラスカ州南東部に細長く点在する大小さまざまな島の一つ、バラノフ島の北西岸にある箱庭のような小さな都市で、一九〇六年までアラスカ政庁の所在地であったところである。ランゲルは、シトカ市より小型飛行機で約一時間ほど離れた小さな島にある。シトカ、ランゲルとも、トンガス国有林に入っており、年間降水量が二〇〇〇ミリをこえる地域なので、すばらしい針葉樹林が海岸線よりおいしげっている。

シトカならびにランゲル日本語補習校は、昭和五十四年三月に、明星学苑がアラスカパルプ株式会社と「教師派遣

に関する契約」を締結し、明星小学校より吉田耕陽教諭が派遣され、アラスカバルブ株式会社の現地法人子会社の日本人社員子女の日本語教育にあたってきた。

毎日を現地のアメリカンスクールに通う日本人社員子女は、日本語といえば家族との対話のみという環境で、アメリカンスクール終了後、日本語学習に通ってくることは、かなりの努力を必要とするが、教師、家族ともども協力し合い頑張っている。

出典：明星学苑創立60周年記念誌編集委員会編集兼発行『創立60周年記念誌 明星学苑』1983（昭和58）年11月10日発行、150～151頁

注： カフジ明星小学校派遣職員名のうち、佐尾山秀二は佐尾山秀治、明内弟次は明内梯次の誤記である。

【資料4】

『創立50周年記念誌 明星学苑』

カフジ明星幼稚園（サウジアラビア）

幼稚園には二十四名の園児がおり、さくら（年長組）、たんぽぽ（年中組）の二クラスから編成されている。以前は、これにひよこ（年少組）を加えて、母親の手で運営されてきたが、一九七二年より、専任の教師により、幼稚園の体制を整え、これに母親のアシスタントの協力を得て運営されている。現在では、カフジ明星小学校の責任者が幼稚園の教育についても責任を負う体制となっており、本年八月、高島峰子教諭が新たに派遣されている。教育内容は、健康、社会、自然、言語、絵画製作、音楽リズムの六領域から、その置かれている地域社会の具体的な実情から教育内容を選択することになっている。ところが、カフジは日本のような四季の移り変わりがきわだっていないため、春には花壇に花が咲き乱れ秋には落葉を拾うというわけにはいかない。また、一年の大半は戸外での思いきった運動ができない。

従ってカフジの幼児教育の参考とすべきものは存在しないということになる。しかし、カフジの実情に合った教育内容づくりに積極的に取り組み、特に、集団における遊びと規律の指導、健康安全教育の重視、環境の整備と美化、カリキュラムの研究などに重点をおき、現在では年間の教育計画が作られ、これにもとづいた教育が行なわれている。

出典：明星学苑創立50周年記念編集委員会編集兼発行『創立50周年記念 明星学苑』1973（昭和48）年11月10日発行、192頁

【資料 5】

児玉九十『明星ものがたり』

海外における明星小学校のこと

半世紀近く前になりますが、私が第一回欧米視察に出て、英国のパブリックスクールを見た時の事です。

英国ではデー・スクール（通学学校）とボーディング・スクール（寄宿学校）という二種類に学校を区別する風がありますが、上述のパブリック・スクールはボーディング・スクール即ち寄宿学校であります。名高い学校としては、イートン、ハロー、ラグビー、ウィンチェスターというような普通にナイン・グレイド・パブリック・スクール（九つの有名学校という意味）があります。ここは人間教育を施すために、寄宿舎に入れて学校が一切の責任に当たるのであります。実に行き届いた厳しい教育を施しております。海外に活動しようという親は子供をこのようなパブリック・スクールに入れて、後顧のうれいなく、カナダ、オーストラリア、インドというような方面に出掛け、腕限りの活動をいたします。イギリスが七つの海を支配した時代に陰の力となったものにこのパブリック・スクールのあった事を見のがしてはならないと、パブリック・スクールを訪ねた時につくづく感じました。日本も資源乏しき面積の小さい国で海外に発展する外には方途はないので、それには英国のパブリック・スクールのような寄宿学校がなければ、安心して多数の人々が海外に向かう事は出来ないと考え、時々そのような考え方を発表いたしました。

満州で張作霖が倒れ、満州帝国が出現、多数の日本人官吏が満州国に行きましたが、子供の教育を犠牲には出来ないといって、内地に移りたがる人が多く、かくては満州帝国の内容充実が出来ないという事で同政府から私に相談がありました。私はかねてからの持論を持ち出して、満州政府が日本内地にパブリック・スクール式の日本人寄宿中学校を第一着手として設立することをおすすめし、政府部内の方針もそのように決定し、朝夕富士山に見える田子浦辺に広い土地を求め、中学校を建設することに内定し、校長には高官で停年退職の方が当たるという事までできました。いよいよ土地買収に掛るという事まで進んだ時に、その高官は生徒の生命の責任まで持たねばならぬという事になると恐れをいさくようになって、引き受けられないという事で、話が一転し、明星学苑はすでに寄宿舎もある事だから、是非満州国日本人官吏子弟教育委託を引き受けて貰いたいというので話が決定し、昭和十九年、二十年の二回程、新京（今の長春）に出張して入学試験を行ない委託生を入れましたが、終戦で満州帝国壊滅と共に委託生の事も自然消滅となりました。

このような根本の考え方がありましたので、アラビア石油のカフジ明星小学校も起こり、続いてザイル共和国（旧コンゴ）のムソシ明星小学校、イランのシラズ明星小学校も始まった訳であります。

国家の発展のためには色々の要件が必要であります。我々は教育の面から少しでも協力しようというのが根本の考え方です。

（一）サウジアラビア・カフジ明星小学校

アラビア石油のように海外にその業務の拠点を持つ企業にとって、長期に亘る家族の帯同は必要欠く事の出来ない条件でございますが、そこで当面いたします最大の問題は何といっても「子供の教育」という事です。海外で国際的な教育観を身につけさせることもすばらしい事です。が、両親の共通の願いは、やはり日本人の良さとすばらしい天性を生かした学問と躰面の日本人による日本語での教育であると思います。そこでアラビア石油会社はクウェート、サウジアラビア両国の中立地帯であるカフジ地区にアラビア鉱業所を持ち、日本人従業員百四十名がおります。そのお子さん達の教育に小学校をお願いできないものかと話がありました。そこで昭和四十二年四月一日カフジ明星小学校が創立されたわけでありす。

昭和四十三年三月二十日カフジ小学校で卒業式がございました際、明星学苑から児玉三夫副学苑長が苑長代理で出席いたしました。その副学苑長の報告からカフジ小学校の模様もいくつか述べておきます。

鉱業所の職員住宅にほど近い、海岸を直ぐ見渡せる場所、相当広い運動場をはさんで、一隅の幼稚園と相對している建物は、二教室と職員室、付属の二、三の小部屋から成り、すぐ隣接にアラビアの小学校二教室が併設されています。現地人従業員の子弟の学校とカフジ小学校とが並存している格好で、双方の子供達は運動場で仲良く遊んでおりまして、人種差別をしないという方針で、現地人子弟の教育施設を鉱業所が提供し、アラブ女教師が指導しているとのことであります。

初めてカフジ小学校を訪れた率直な感じは、予想していたより遥かに立派な建物で、エアコンの整った教室でありました。

職員室に出入する子供達の言動にはこちらの明星小学校児童に優るとも劣らぬ態度が看取され、学校における児童のいわゆる躰けは実によく出来ているし、しかもその態度が自然で明るいものでありました。

朝礼、体操に始まる授業の内容や、個別的な指導法も熱心で、児童達も学習の意欲、活動が活発で、よく訓練され、指導されており、こちらの明星小学校と全く同じ教育をいたしておるわけです。

(二) ザイール (旧コンゴ) ・明星ムソシ小学校

日本鉱業株式会社 (旧名久原鉱業) は日本の銅資源も海外依存の必要のある事からアフリカ・コンゴ共和国の銅鉱脈に着目し、同国との契約に成功し、コンゴ鉱工業開発株式会社を起こして発掘を開始しております。ところが日本人社員の子弟は遠方のベルギー人学校に通学させる外に教育の方法がないので、社員が落ち着かず、会社としても非常に苦慮している際に、明星学苑カフジ小学校の話を聞き、カフジ小学校のような風にお願ひできないでしょうかというお申し出がアラビア石油を通じてありました。

先生の二年ごとの交替のことや、アラブ連合とイスラエルの衝突事件などもあり決して簡単なことではございませんでしたが、お申し出に応ずる事に決心いたしました。

そこで新しい学校づくりが昭和四十五年四月から始まりました。現地の地図を頼りに住宅地域内における校地の選定、校舎・体育館・運動場・プールの配置など、コデミコ (コンゴ鉱山開発株式会社) の担当の方々の協議を重ねました。日照、風向きなど現地の様子が不明のため、現地から帰られた方々に問い合せて考慮しました。校舎の完成は十二月末との事でありました。六月中旬学苑より派遣された中西、青木両先生の指導のもとにルブンバシ市内の仮校舎で、二十七名の生徒の小学校が開始されたのでございます。

昭和四十六年九月六日午後一時より「コンゴ明星ムソシ小学校」の開校式が行なわれました。開校式には学苑長代理として児玉三夫副学苑長が出席いたしました。その報告をも含めてムソシ小学校の現状および開校式の模様をいくつかご紹介いたします。

九月六日はさわやかな高原の風が校旗を中心に日本国旗とコンゴ国旗がひるがえっており、明星学苑から遠路はるばる出席しました副学苑長、ソデミザ伊藤社長を初め会社の方々、来賓・カスンバレサ在住の父兄・会社の方々の列席の下に、可愛い児童達を中心に一同喜びあふれて、盛大に開校式が行なわれたわけであります。国歌斉唱にはるか祖国をしのび、学苑賛歌斉唱にはこの学校に学ぶ喜びがこめられていたそうでございます。

ザイール国ルブンバシ (人口三十二万) より一〇〇キロ、コンゴ鉱工業開発 KK (ソデミコ) が開発中のムソシ鉱山へ二十キロ、キンセンダ鉱山へ二十七キロのカスンバレサに小学校があります。ソデミコ幹部社員住宅地のほぼ中心にコンゴ明星ムソシ小学校の二棟からなる校舎が美しい姿を見せております。

校舎内は普通教室、職員室、保健室のほか、図書室、理科室、図工室、柔道室、音楽室などがあり、二千冊余の書籍、数々の理科器材、殊に音楽教室にはグランドピアノが備えられています。日本の教科書を用い、学苑の教育方針

を中心とする指導が行なわれていますが、勿論日本における「学習指導要領」に準拠するカリキュラムの構成であります。登校する児童数十八名で、八時の朝礼、体操から始まり、上級学年は午後の四時までびっしり教科指導が行なわれます。内地と多少違ったことと申せば、昼食時に約二時間児童は各家庭に帰り休憩いたしますが、これは特殊な環境下での生活習慣のためであります。

(三) イラン・シラズ明星小学校・幼稚園

学苑創立五十周年記念式典を終えた頃、ブリヂストンタイヤ株式会社がイランに工場を設立するについて、「同会社の従業員の方々の児童・幼児のために学校を設立したい。ついては海外における日本人子弟の教育に経験をもつ明星学苑で、教育の全責任をもって学校運営に当ってもらえないだろうか」という依頼がありました。昭和四十九年、度重なる往来と折衝が行なわれ、同年春頃、両者間に学校設置と運営について、ほぼ了解が得られたのであります。

そして、同年夏、副学苑長と明星小学校川上和夫先生を現地視察に派遣いたしました。その後両者の間に具体的な学校設置と運営のプランニングが行なわれ、急速に実施の準備が進められるようになったのであります。施設設備面でのBSの準備と、学苑側での教育課程と教員人事に関する検討とが並行して行なわれ、昭和五十年二月十五日付でBSと明星学苑との間に「イラン・シラズ市における学校運営・教師派遣に関する契約の件」が正式に調印決定されました。

企業と学校が直接協力し合って海外で実施している教育形態は、わが国では明星学苑以外にはありません。約二ヶ年に亘る折衝と検討、了解、また準備、実施には双方の関係者の間に並々な苦勞がありました。日本の将来の発展、海外における子弟教育の重大さという課題が、BSと明星学苑との間に見事に結実されたわけであります。

四月からの暫定開校と九月正式開校の準備のため、シラズ明星小学校、幼稚園主事として川上先生が三月現地向い、更に八月、綱田先生、渡辺先生が現地へ赴任いたしました。

昭和五十年九月二十八日、イラン・シラズ明星小学校・幼稚園の開校式が挙行されましたが、学苑長代理として児玉三夫副学苑長が出席しました。その報告を含めて開校式の模様などをご紹介します。

建物は一見邸宅風の二階建、前庭に芝生があり、敷地一、二〇〇㎡、建物延三一〇㎡、九部屋、二台所の規模であります。

開校式は朝九時に全職員・児童二十二名、園児十四名、父兄全員揃って来賓のBS柴本社長、駐イラン井河大使夫妻、テヘラン日本人学校大野校長他をお迎えして挙行されました。入学児童・園児の点呼から始まって、来賓の方々から喜びや激励の言葉を頂戴して、児童代表の大久保洋君の挨拶、記念品の贈呈、学苑讃歌の斉唱で盛大な式が終り、一同決意を新たにしてこの小学校・幼稚園の発展を誓ったのであります。

開校式以来満一年以上が経過いたしました。カフジ明星小学校・幼稚園と並んで海外における明星教育が見事に花を咲かせて行く事を確信している次第であります。

次に、両小学校に派遣され任務を終了された先生方と、現在派遣勤務中の先生方の氏名を掲げて、そのご努力をねぎらいたいと思います。

サウジアラビア・カフジ明星小学校・幼稚園勤務者

中 村 雅 臣	先 生	○
福 島 茂 明	先 生	○
清 水 鞆 夫	先 生	○
波多野 松 男	先 生	○
岡 田 隆 機	先 生	○

高 島 秀 樹	先生	○
前之園 幸一郎	先生	○
吉 田 耕 陽	先生	○
山 川 泰 宏	先生	○
佐尾山 秀 治	先生	○
福 島 茂 明	先生	○
高 島 峰 子	先生	○
三 浦 正 一	先生	
綿 貫 敏 雄	先生	
鈴 木 敬 子	先生	
小 山 研 士	先生	
小 原 格	先生	

ザイール・明星ムソシ小学校勤務者
(昭和45年6月～昭和51年3月児童数激減のため閉鎖)

中 西 悦 夫	先生	○
青 木 秀 雄	先生	○
武 田 尊	先生	○
永 島 明 子	先生	○
百 木 英 明	先生	○
清 水 正 人	先生	○

イラン・シラズ明星小学校・幼稚園勤務者

川 ^(ママ) 口 和 夫	先生
綱 田 活 広	先生
渡 辺 澄 江	先生

○印は任務終了者

(昭和51年10月現在)

出典：児玉九十『明星ものがたり』1976（昭和51）年11月9日、明星学苑刊、142～150頁

注： イラン・シラズ明星小学校・幼稚園勤務者のうち、川口和夫は川上和夫の誤記である。

【資料：解題】

明星学苑海外日本人小学校の足跡 — カフジ明星小学校を中心に —

高 島 秀 樹*

山下太郎がなくなってから二年後の昭和四十四年秋、夫人文子をはじめ
てカフジの現地を訪問した。

砂漠のなかに立ちならぶタンク、製油工場、倉庫、発電所の壮観に、彼
女は目を見張った。従業員のための社宅、病院、小学校、現地人のための
回教寺院まで完備している。

無人の曠野のなかに、まるで魔法のように、この人工都市を造りあげた
山下太郎という人が、どんな人であったか、彼女はいまはじめて知ったと
思った。…（略）…

あふれる涙に、焰の色がにじんだ。

杉森久英『アラビア太郎』286～287頁

目次

はじめに

1. 日本企業の海外展開と海外日本人学校の開設
2. カフジ明星小学校の開設
 - (1) カフジ明星小学校開設の経緯
 - (2) アラビア石油（株）取締役社長山下太郎と学校法人明星学苑理事長児玉九十
 - (3) カフジ明星小学校開設に対するアラビア石油（株）の認識

おわりに

はじめに

明星大学を設置運営している学校法人明星学苑は1967（昭和42）年から企業の要請にこたえて海外日本人小学校
3校・幼稚園2園・日本語補習校1校を順次開設し、教育実践を展開していた。これは明星学苑の学校法人としての
事業であり、直接的には明星小学校・幼稚園の分校・分園として設置して明星小学校・幼稚園と同一の教育を提供す
るという活動であって明星大学の事業ではないが、各校・各園に明星大学からも多くの教職員が出向した。また、こ
れらの各校・各園はすでに全て廃校・廃園になっていることから、その記録を残すことを意図して本紀要に資料を掲
載することとした。

ここに収録した資料は、新聞記事が「明星学苑小が初の海外分校 来月、クウェートに アラビア石油社員の子弟
教える」（『毎日新聞（朝刊 東京版 多摩）』1967（昭和42）年3月8日発行）と、「コンゴに分校づくり 明星学

* 人文学部人間社会学科教授 教育社会学

苑 二人の先生派遣 開発銅山に『日本の教育』(『毎日新聞(夕刊)』1970(昭和45)年6月10日発行)の2種である。また、明星学苑の年史の中から全ての海外日本人小学校・日本語補習校について記載している『創立60周年記念誌 明星学苑』(1983(昭和58)年刊)と、同誌には記載がないカフジ明星幼稚園について記載している『創立50周年記念誌 明星学苑』(1973(昭和48)年刊)の該当頁、さらに明星学苑理事長・明星小学校長(当時)である児玉九十が「海外における明星小学校のこと」と題して記述している『明星ものがたり』(1976(昭和51)年刊)の該当頁である。

解題においては、明星学苑が初めて設置した海外日本人小学校であり、「企業立・学校法人運営」という形式を成功させた最初の事例であること、それによってその後の各企業から同形態の小学校・幼稚園開設の申し入れを受ける理由となったことからカフジ明星小学校について記すこととする¹⁾。

1. 日本企業の海外展開と海外日本人学校の開設

海外日本人学校は第二次世界大戦前・戦時中に旧：満州(現：中国東北部)【付記1. 参照】、シンガポール、香港、マニラなどの植民地や占領地に開設されていたといわれる。しかし、海外日本人学校の必要性が高まり、本格的に各地に開設されるのは、第二次世界大戦後、1960年代からの高度経済成長期に日本企業が海外進出を本格化させ、海外に家族を帯同する社員等が急激に増加した時期からである。文部科学省の資料によれば、当初は各地の日本人会等が私的に開設していたが、第二次世界大戦後初めて公的に開設されたのは1956(昭和31)年にタイ・バンコクに在タイ日本国大使館附属として開設されたバンコック日本人学校であるとされ、1959(昭和34)年からは外務省予算の中で日本人学校に対する政府の財政援助が始まり、1962(昭和37)年からは国内から教師の派遣が始まった²⁾。

カフジ明星小学校が開設された1967(昭和42)年とは年次が異なるが、現在入手しうる資料に示された数値として、海外在住の幼稚園から高等学校相当の年齢の者は1966(昭和41)年には4,159人であったのに対して、1971(昭和46)年には義務教育年齢の海外在住児童生徒だけで8,662人になったという数値が示されている³⁾。文部省(当時)は『我が国の教育水準』(昭和45年度)において1年以上海外に在住する学齢期の子女は約8千人と推定しており、帰国子女の海外在留中の就学状況については1968(昭和43)年度現在で日本人学校在籍者12.1%、在留国通常学校在籍者70.2%、国際学校在籍者8.9%、在学しなかった者8.8%、これらのうち日本語補習学校には21.2%の者が重複・出席していたと示している⁴⁾。現在入手しうる資料の年次が異なることから断定的な発言はできないものの、明星学苑が海外に日本人小学校等を設置した時期は、海外に在住する日本人が増加し、家族を帯同することも増加し、海外に在住する児童生徒が増加し続けていたこと、他方、海外日本人学校の設置が始まったものの学校数や設置地域から考えて世界各地に十分に整備されてはいなかったと考えられる。

なお、この時期は海外在住日本人児童生徒に対する教育への組織的対応が求められた時期でもあり、1971(昭和46)年1月には財団法人海外子女教育振興財団(その後2011(平成23)年4月に公益財団法人に認定される)が設置されている⁵⁾。

このようにカフジ明星小学校が開設された1967(昭和42)年前後は、海外在住日本人児童生徒に対する教育への本格的な取り組みが始められた時期ではあるが、一企業のために公的日本人学校を開設することはもとより、企業立として設置してもそれに対して公的支援を得ることが期待できるような状況ではなく、企業自身が全て対応せざるを得ない状況にあったと考えられる。このような状況が企業立・学校法人運営という形態をとるカフジ明星小学校開設の時代的背景として存在したと考えられる。

2. カフジ明星小学校の開設

(1) カフジ明星小学校開設の経緯

学校法人明星学苑がカフジ明星小学校を開設した経緯について解題執筆者が現在までに入手することができた資料の中では必ずしも十分に記載されていない。

児玉九十の生涯について詳細に述べられている『児玉九十自伝』においても「明星学苑では、創立いらい国外に赴任していただける方の子弟をうけ入れて寄宿舎で実践教育に励むことをひとつの特色としてきました。」という記述に始まる歴史的経過の説明、さらに第二次世界大戦後「めざましく国際化のすすむなかで、さまざまな企業が世界のあらゆる地帯へ進出しておりますので、大量の日本人が海外で家族ぐるみの生活をすることはめずらしくなくなり、もはやこれまでのように、子女を親元から引きとって国内で教育することは不可能に近い状態となりました。」、それゆえ明星学苑が世界の各地域に教育機関を進出させることになったという基礎的・一般的な認識、また、「…（略）…日本人としての自覚を養い、しつけの面でも日本人らしいものを身につけさせて、のびのびと天分を伸ばすには、どうしても現地で日本人による日本語の教育が必要であるというのが共通の希望でありました。」⁶⁾ という認識は示されているものの、カフジ明星小学校の開設については、この記述に続いて次のように記載されているだけである。

そこで当時、クウェートとサウジアラビア両国の中立地帯にあるカフジ地区の、百四十名の従業員からなる鉱業所をもつアラビア石油会社からの要望にこたえて「教師派遣ならびに教育全般に関する契約」を取り交わし、四十二年四月一日より、カフジ明星小学校を創立することといたしました⁷⁾。

このようにアラビア石油（株）の「要望にこたえて」とは記載されているものの、どのような事情により明星学苑に小学校開設の依頼がなされたのかなどについては明らかにされていない。【資料 1】として収録した新聞記事によれば「たまたま同社には明星学苑高校の卒業生がかなりおり、クウェートにも二人が駐在している。しかも、みんな優秀な社員、そこで昨年九月児玉校長に分校設置の話を持ちかけた。」と記載されているが、明星学苑・児玉九十関連の資料ではこのような内容に類する記載を見出すことはできない。明星学苑が記念となる年に刊行してきた『創立 50 周年記念 明星学苑』『創立 60 周年記念誌 明星学苑』『明星学苑創立 85 周年記念誌』⁸⁾ においては、年表の中に海外小学校・幼稚園の開設が記載されており、【資料 3/4】に転載したように現況の一部として海外小学校・幼稚園について記載されているが、開設にいたる状況などについては記載されていない。

解題執筆者は最初に開設されたカフジ明星小学校についてアラビア石油（株）から他の私立学校ではなく学校法人明星学苑に対して開設希望が寄せられた背景として、アラビア石油（株）の創業者であり初代の取締役社長山下太郎と学校法人明星学苑理事長児玉九十が旧知の間柄であったのではないかと推測しているが、次に開設されたコンゴ明星ムソシ小学校に関する【資料 2】として収録した新聞記事には「…（略）…同鉱業（コンゴ鉱工業開発会社の意：解題執筆者付記）初代社長、久原房之助氏と児玉学苑長が旧知という個人的理由…（略）…」が記載されており、このような個人的関係が山下太郎と児玉九十の間にもあったのではないかと推測する一理由となっている。山下太郎と児玉九十の接点は第二次世界大戦期の旧：満洲・旧：満州国にあったのではないかと解題執筆者は推測している。山下太郎と児玉九十がともに第二次世界大戦期において旧：満洲・旧：満州国と関係を持っていたことは資料によって明らかである。

(2) アラビア石油（株）取締役社長山下太郎と学校法人明星学苑理事長児玉九十

アラビア石油（株）の創業者であり取締役社長を務めた山下太郎は、1889（明治 22）年 4 月 9 日⁹⁾、東京で近藤正治・

みつ夫妻の長男として出生、山下家再興の意味もあって祖父山下太惣吉・ひさ夫妻の養子となり秋田県平鹿郡大森町で育ち、小学生時代に両親の住む東京に再び転居、慶應中学校を経て札幌農学校（現：北海道大学農学部）農芸科を1912（明治45）年に卒業した¹⁰⁾。卒業後は実業界に身を投じ、1916（大正5）年に山下商店を設立、ロシア・アメリカ・旧：満州などとの海外貿易に取り組んだが、1921（大正10）年から旧：満州において住宅を建設しこれを南満州鉄道（株）に一括して貸し付けることによって成功をおさめて財をなし、世に「満州太郎」とよばれたという。第二次世界大戦後は日本で大幅に不足している石油資源に着目し、1956（昭和31）年に石油の加工貿易、精製した石油製品の輸出を目的とする日本輸出石油（株）を設立、1957（昭和32）年にサウジアラビア、次いでクウェートから両国の中立地帯海上に石油利権を得て、1958（昭和33）年にアラビア石油（株）を設立して取締役社長に就任、1960（昭和35）年に第1号井試油に成功し、世に「アラビア太郎」とよばれたという。1967（昭和42）年6月9日逝去。山下太郎が第二次世界大戦期に旧：満州と深いつながりを持ち、同地で活躍していたことはいくつかの資料から明らかである¹¹⁾。

児玉九十も『児玉九十自伝』によれば、旧：満州・旧：満州国と関係を持っていた。その1は在任校の生徒を引率して旧：満州旅行を行っていることであり、明星中学校の前任校である成蹊中学校在任中に3回・明星中学校就任後1930（昭和5）年に1回「鮮満研修旅行」（有志生徒18名、引率教員児玉九十の他に1名）を実施している¹²⁾。その2は、視察などで旧：満州を訪問していることであって、1921（大正10）年（全国中学校長有志30余名の視察団長として）、1934（昭和9）年、1943（昭和18）年の3回訪問した。1934（昭和9）年の訪問は旧：新京（旧：満州国の首都、現：長春）における全国中学校校長協議会臨時総会開催などを含み、それに参加する中学校校長等110名からなる約1か月間の大規模な視察旅行であり、特に同年9月20日には会議参加者を代表して旧：満州国皇帝溥儀に拝謁している¹³⁾。その3は、旧：満州国に勤務する日本人官吏の子弟に対して日本において寄宿舎教育を実施する事業が明星中学校（当時）に委託されたことである。当初は旧：満州国が独自に日本国内に寄宿制中学校を開設する計画を持っていたものの、これが実現せず、寄宿舎を持つ明星中学校が受け入れることとし、1944（昭和19）年度・1945（昭和20）年度の2年度に入学している¹⁴⁾。これらの記述によれば児玉九十が第二次世界大戦期に旧：満州・旧：満州国と関係を持っていたことは明らかである。

山下太郎と児玉九十の間に旧：満州・旧：満州国において何らかの接点があったことは、残念ながら解題執筆者が現在までに入手することのできた両者に関する資料には記載が見られない¹⁵⁾。両者の間に旧：満州を媒介として何らかの接点があり、それがアラビア石油（株）から数多い私立学校の中で学校法人明星学苑に要望する一つの理由になったのではないかという考えは、現在のところ解題執筆者の推測にとどまらざるを得ず、今後の資料発掘・検討を待たざるを得ない。

(3) カフジ明星小学校開設に対するアラビア石油（株）の認識

カフジ明星小学校について、アラビア石油（株）はどのように受けとめていたのでしょうか。アラビア石油（株）の創立35周年時に刊行された『湾岸危機を乗り越えて アラビア石油35年の歩み』には「第I部 会社の歩み、第8章 サウジアラビア・クウェイト両国への貢献、地域社会発展への貢献、学校の建設」の個所で次のように記されている。

会社の学校運営は1966（昭和41）年5月に日本人小学校を社宅区域の中に開校したことにさかのぼる。鉱業所の日本人従業員の家族第1陣が1964（昭和39）年カフジに到着して以来子供たちの教育が問題となり、初めは仮教室で児童11人への手づくりの学校授業が始まった。

1967（昭和42）年、学校法人明星学苑の協力を得て、日本の学校教育法に準拠したカフジ明星小学校を正式に

開校し、同学苑から教師が派遣されることになった。

校舎も新築され、視聴覚教材や図書も充実し、複式授業ながらカフジ日本人小学校では内地と変わらぬ教育を受けることができたのである。

日本人小学校の開校に続いて、日本人以外の会社従業員のためにもアラブ人の男子、女子小学校がそれぞれ社宅区域内に建設され、日本人、アラブ人それぞれの幼稚園もできた¹⁶⁾。

この資料では企業の公式年史という性格から、客観的な記述にとどまっているが、これに先立って創立 15 周年時にいわば「外史」として刊行された『アラビアに生きる＝アラビア石油 15 年の「砂漠体験」＝』「第 3 部 アラビアの日本人 悩みの種は子供の教育」の個所では次のように記されている。

それでも、子供が小さいときは、まだ何とでもなる。カフジの、東京などとはくらべものにならないようなキレイな空気の中で、のびのびと育ててやれる、という気持ちになる。

幼稚園に行く年ごろになっても、お互いの家庭で順番制で子供をあずかる「家庭幼稚園、などもひらいた。それはそれで、お互いに時間のやりくりをして、子供をあずかり、遊ばせることができた。

カフジ基地の正式な小学校が開校する一九六六年までの二年間も、大学出てから間もない若い従業員を家庭教師に頼んだりして、何とか低学年の教育をやっていた。

最近では正式な小学校もできて、正規の免許をもつ先生が東京の明星学苑から来てくれている。これで小学校までの教育はほぼ心配がなくなった¹⁷⁾。

この書は「あとがき」によれば社員が集まって座談会を行い、その内容を校閲、加除訂正して作成したと記載されており、社員のいわば「ホンネ」に近いと思われる。正規の小学校・幼稚園開設以前の子どもの教育・保育に関する状況が明らかになっており、そのような状況の中で正規の小学校が開設されたことが社員と同行した家族にとってどのように受けとめられたかを示している。

おわりに

学校法人明星学苑が最初に海外に開設したカフジ明星小学校については、学校開設以前の 1964（昭和 39）年から家族が現地に居住しており、2 年間は主として母親が子どもの教育指導にあたっており、その後 1966（昭和 41）年度 1 年間教員資格を持つ日本人（1 名）に学校教育を委託したものの個人での教育実践には限界があったと推測される。そのような状況の後に日本の学校教育法に準拠し日本の小学校の分校として小学校が開設されたことは、現地で生活していくうえで重要な課題を解決するものとして、きわめて強く歓迎されたと理解される。1967（昭和 42）年のカフジ明星小学校開設時に最初の教員 2 名のうちの 1 名として赴任した中村雅臣はゲストハウスを仮校舎として開校した後、専用の校舎が完成、保護者が総出で移転を実施、グランドピアノを父親たちがアラビアの炎暑の中を手持ちで運んだ姿が忘れられないという¹⁸⁾。これもいかに学校の開設が保護者に強く待たれていたか、いかに歓迎されたかを示す行動であったと解題執筆者は理解している。カフジ明星小学校開設 3 年後の 1970（昭和 45）に赴任した解題執筆者も「カフジ明星小学校が開設され、二人の教員に子どもたちが接する姿を見て涙が出た」という話を複数の保護者からお聞きした¹⁹⁾。異国、特にアラビアの砂漠という日本とは全く気候風土・文化の異なる異郷に暮らす保護者にとって子どもたちの教育が重要な課題と考えられていたこと、その課題が解決されたこと、日本と同じ学校が開設されたということがどのように受け止められたかを示す挿話であると解題執筆者は理解してきた。

明星学苑が開設した海外日本人小学校・幼稚園・日本語補習学校のうちカフジ明星小学校に関しては、その開設の事情や現地での受け止め方などについて、推測に留まるという限界もあるもののある程度明らかにすることができたと考えている。この解題を出発点として、今後明星学苑が開設した他の海外日本人小学校等について、現地勤務者の経験も含めて記録を残すべきことが次の課題であることを指摘して本解題を閉じたい。

(2016年8月・稿)

【付記】

1. 現在「満州」「満州国」という呼称は用いることが望ましくないとされるが、本稿においては歴史的研究のため「旧：満州」「旧：満州国」として記載していることをご理解いただきたい。
2. 本稿は歴史的研究であると考え、全て敬称を省略させていただいた。ご了解いただきたい。

【注】

- 1) なお、解題においてカフジ明星小学校に限定して解説を付すことは紙数の制約があることによるが、さらにきわめて個人的な理由であるが、解題執筆者が外向・在任した経験を持つことによることも付記し、ご了解をお願いする。
- 2) 文部科学省「CLARINET へようこそ」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/007.htm 2015年6月22日閲覧)
乾侑・園一彦『海外駐在員の子女教育』1977年、27～28頁
- 3) 小林哲也『海外子女教育・帰国子女教育 国際化時代の教育問題』1981年、4～6頁
- 4) 文部省（当時）『我が国の教育水準』（昭和45年度版）「第1章3（4）」(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad197001/hpad1970001_2_012.html 2015年9月4日閲覧)
- 5) 海外子女教育振興財団「海外子女教育振興財団 概要」(<http://www.joes.jp/gaiyo/index.htm> 2015年6月22日閲覧)
- 6) 児玉九十伝編集委員会編『児玉九十自伝』1990年、429～430頁
- 7) 同上、430～431頁
- 8) 明星学苑創立50周年記念編集委員会編『創立50周年記念 明星学苑』1973年、192頁
明星学苑創立60周年記念誌編集委員会編『創立60周年記念誌 明星学苑』1983年、(年表)6～7頁／150～151頁
明星学苑創立85周年記念誌編集委員会編『学天の明星をめざして—明星学苑創立85周年—』(年表)74～75頁
- 9) 山下太郎顕彰育英会「山下太郎氏年譜」(<http://yamaiku.jp/nenpu> 2015年9月0日閲覧)
4月24日生まれとしている資料（例：高多清在『風雲児・アラビア太郎』もあり、これをはじめとして山下太郎の経歴については資料によって異なった記載があり、確認することができなかった。
- 10) アラビア石油株式会社社史編集プロジェクトチーム編『湾岸危機を乗り越えて アラビア石油35年の歩み』1993年、29頁
大学卒業についても、その年次（1909（明治42）年と記している資料もある）、卒業学科（本科か専攻科か、異なる記載の資料がある）について異説があり、確認することができなかった。
- 11) 同上、30～31頁
- 12) 児玉九十『明星ものがたり』1976年、46～50頁
- 13) 前出、注6）と同じ、224～227頁 241～247頁

14) 同上、276～278 頁

前出、注 12) と同じ、54～62 頁

15) 解題執筆者は、児玉九十と山下太郎が旧・満州時代からの旧知の間柄であったという話をカフジ在任期にお聞きしたことがあるようなかすかな記憶があるが、45 年以上前のことであり、いつ、どなたから聞いたかなど明確な記憶がなく、この点については推測にとどまらざるを得ない。

16) 前出、注 10) と同じ、107～108 頁

17) アラビア石油株式会社『アラビアに生きる＝アラビア石油 15 年の「砂漠体験、＝」1974 年、115 頁

18) この件については解題執筆者が中村雅臣から直接お聞きした。

さらに児玉九十もこの件について記している。(前出、注 6) と同じ、432 頁)

なお、中村雅臣(当時：明星小学校教諭)と同時に赴任した福島茂明(当時：明星大学人文学部心理・教育学科助手)はすでに故人となられた。記して哀悼の意を表したい。

19) これは解題執筆者が当時直接保護者からお聞きした話である。

【参考文献】

アラビア石油株式会社『アラビアに生きる＝アラビア石油 15 年の「砂漠体験、＝」1974 年、アラビア石油株式会社
アラビア石油株式会社社史編纂プロジェクトチーム編『湾岸危機を乗り越えて アラビア石油 35 年の歩み』1993 年、
アラビア石油株式会社

杉森久英『アラビア太郎』1970 年、(株)文芸春秋

高多清在『風雲児・アラビア太郎』1967 年、(株)宮川書房新社

児玉九十『明星ものがたり』1976 年、明星学苑

福島茂明「海外における邦人子弟教育施設の概観」(明星時報編集委員会編『明星時報』第 49 号、1976 年、明星大学、
所収)

児玉九十伝編纂委員会編『児玉九十自伝』1990 年、(株)明星大学出版部

明星学苑創立 50 周年記念編集委員会編『創立 50 周年記念 明星学苑』1973 年、明星学苑

明星学苑創立 60 周年記念誌編集委員会編『創立 60 周年記念誌 明星学苑』1983 年、明星学苑

小林哲也編『異文化に育つ子どもたち』1983 年、有斐閣